

成長・発展ワーキング・グループの今後の進め方（案）

1. 主要論点と進め方

今後 50 年の日本経済に繁栄と安定をもたらすための「新たな成長・発展メカニズム」とはどのようなものであり、その実現のために必要な取組は何か。主査サマリーで挙げた重点課題等について、議論を深める。また、新たなメカニズムが、日本経済の将来の姿にどのような影響を及ぼすのか。シミュレーションを活用しつつ検証する。

① 成長・発展を通じて国民生活の水準を向上していくための課題 (検討の方向性)

- ・イノベーションによって経済成長を実現していくためには、オープンで柔軟な制度を構築することにより、「多様性」を尊重し、「つながり」を確保していくことが重要である。このため、主査サマリーに明記された重点課題について、目指すべき姿や方向性、政策的課題、民間における実践について議論を深める。
 - 「日本ブランド」をどのように確立し発信していくのか。特に、サービス業において、ブランディングを通じてどのように付加価値を高めていくことができるのか。
 - 知識資本投資をいかに伸ばしていくのか。また、知識資本投資と IT 投資を組み合わせて、いかにイノベーションに結び付けていくのか。
 - 知的財産を有効に活用するために、大学と企業がいかに連携していくのか。
 - 人的資源を蓄積していくために、政府、企業、個人はどのような対応が必要か。
 - 医療・バイオ、エネルギー・環境、IT 等の各分野において、潜在需要を確実に取り込むための課題は何か。
 - グローバル化を背景に国際的な分業体制が構築される中、グローバル・バリュー・チェーンを取り込んでいくためにはどのような対応が必要か。
 - 産業・企業の「新陳代謝・若返り」を促進するために、いかに金融機能を強化していくのか。また、国際金融センターとして機能するために、どのような対応が必要か。

② 成長・発展を通じて目指すべき経済と国民生活の検証

(目的)

- ・ 経済成長・人口減に関して特段の政策対応を図らなかった場合の今後50年の経済・財政等の姿とともに、必要な政策対応を図ることにより50年後に人口1億人を維持する場合の今後50年の経済・財政等の姿を示す。その際、国民生活の水準がどうなっているかといった点も示す。

(推計指標例)

イ) 経済・財政等のマクロ的な姿はどうなっているか

- 潜在成長率
- 部門別 I S バランス、経常収支
- 財政収支、債務残高
- 社会保障負担・給付
- 国民負担率

ロ) 国民生活の水準がどうなっているか

- 一人当たり実質GDP、一人当たり名目GNI
- 一人当たり実質消費

(進め方)

- ・ 事務局において計量モデルを構築し、委員のご協力を得ながら、一定の仮定の下で人口、成長に関する複数のシナリオについて推計を行う。
- ・ 将来推計の結果を成長・発展WGに報告し、それを踏まえてご議論いただく。また、将来推計及びそれを踏まえたWGにおける議論を委員会に報告する。

2. スケジュール

○第4回成長・発展WG

- ・ 今後の議論の進め方について議論
- ・ 委員よりプレゼンテーション

○第5回成長・発展WG

- ・ 委員及び有識者よりプレゼンテーション

○第6回成長・発展WG

- ・ 将来推計の報告、それを踏まえた議論